

# 大野町小中学校のあり方検討

## 意見聴取結果

### まとめ

令和 7 年 2 月

1	意見聴取の概要.....	1
1.1	実施概要.....	1
1.2	設問内容.....	1
1.3	提示した検討内容.....	2
1.4	結果.....	5
1.4.1	属性.....	5
1.4.2	各案及び統廃合に対する意見.....	6

## 1 意見聴取の概要

### 1.1 実施概要

目的	学校適正化基本方針の策定に向け、町民から広く意見を聴取するため
実施方法	検討内容の説明動画をオンデマンドで配信し、オンラインで意見聴取を実施した。 回答フォームは、動画の配信画面をはじめ、市 HP、「広報おおの」等の各種媒体に掲載し、回答を呼び掛けた。
実施期間	令和 6 年 12 月 20 日(火)～令和 7 年 1 月 31 日(金)
対象者	大野町民、その他関係者
動画視聴回数	1,064 回視聴（回答受付終了時）
回答数	129 件

### 1.2 設問内容

1	あなたに概要する項目を選択してください。(必須) ① 乳幼児の保護者 ② 小中学生の保護者 ③ 18 歳以下の町民 ④ ①から③以外の町民 ⑤ その他（町外者、教職員等）	選択（単回答）
2	お住まいの校区（地域）を選択してください。(必須) ① 大野小学校区 ② 東小学校区 ③ 北小学校区 ④ 西小学校区 ⑤ 中小小学校区 ⑥ 南小学校区 ⑦ 町外	選択（単回答）
3	大野町小中学校のあり方外部検討委員会の答申の内容をご存じですか。 (必須) ① 内容を知っている。 ② 内容は知らない。	選択（単回答）
4	あなたのご意見をお聞かせください。	記述

### 1.3 提示した検討内容

意見聴取を実施するにあたって提示した検討内容を以下に示す。

## 3. 学校規模適正化の検討

### ■ パターン検討

- 4つのパターンにわけて比較検討

案1-①	<b>小学校1校、中学校1校</b> 小中一貫校または義務教育学校として統合
案1-②	<b>小学校1校、中学校1校</b> 小学校、中学校をそれぞれ1校ずつに統合
案2-①	<b>小学校2校、中学校1校</b> 現在の中学校区をもとに小学校を統合 (小学校は大野・北・西・東と、中・南をそれぞれ統合)
案2-②	<b>小学校2校、中学校1校</b> 学校変遷をもとに小学校を統合 (小学校は大野・北・東と、西・中・南をそれぞれ統合)

9

## 3. 学校規模適正化の検討

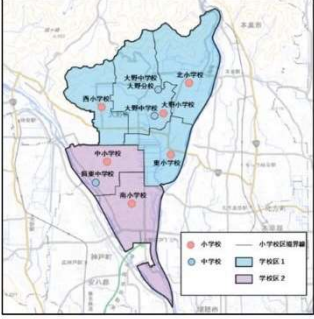
### ■ シミュレーション結果

案1-①	<b>小学校1校、中学校1校</b> 小中一貫校または義務教育学校として統合	<b>学校規模</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年後(R36)まで小学校・中学校とも<b>1学年あたり3学級以上</b>。</li> <li>・ その後、50年後においても1学年あたり2学級と<b>長期にわたり一定規模を確保</b>。</li> <li>・ 40年後(R41)、中学校で9学級未満となる(案2-①②も同様)。</li> </ul>
案1-②	<b>小学校1校、中学校1校</b> 小学校、中学校をそれぞれ1校ずつに統合	
		<b>施設コスト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのまま(現状維持)と比較し、当初に建設費がかかるが、修繕・改修費が抑制されるため20年後で同程度となる。</li> <li>・ 案2-①②と比較して15年後(R21)までは優位であるが、以降は同等の評価である。</li> </ul>
		<b>通学距離</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学生の通学距離4kmとすると、80%程度は通学距離圏内だが、<b>一部圏外</b>。</li> <li>※町の重心に配置を想定</li> </ul>

10

### 3. 学校規模適正化の検討

#### ■ シミュレーション結果

<p><b>案2-①</b></p>	<p>小学校2校、中学校1校 現在の中学校区をもとに 小学校を統合 (大野・北・西・東と、 中・南をそれぞれ統合)</p>	<p><b>学校規模</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R13時点(小中学校再編計画年次)で、<b>小学校2校のうち1つは1学年あたり1学級</b>となる。</li> <li>・ 40年後(R46)以降は、中学校が9学級未満となる。</li> <li>・ 50年後には小学校2校とも1学年あたり1学級となる。</li> </ul>
		<p><b>施設コスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案1-①②と比較し、学校数が多いので初期の建設費がかかり短期で見ると劣るが、20年後(R26)以降の長期スパンで見ると同等の評価となる。</li> </ul>
		<p><b>通学距離</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>小学校2校とも通学範囲の大半をカバー</b>。</li> <li>・ そのまま(現状維持)には劣るものの、案1-①②、案2-②と比較して優位である。</li> </ul>

11

### 3. 学校規模適正化の検討

#### ■ シミュレーション結果

<p><b>案2-②</b></p>	<p>小学校2校、中学校1校 学校変遷をもとに小学校 を統合(大野・北・東と、 西・中・南をそれぞれ 統合)</p>	<p><b>学校規模</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25年後(R41)まで<b>小学校で1学年あたり2学級</b>・中学校3学級以上を確保。</li> <li>・ <b>30年後(R36)に1学年あたり1学級の小学校発生</b>。</li> <li>・ 案2-①よりは長期にわたり適正な学校規模を確保できるが、案1-①②よりは低評価。</li> </ul>
		<p><b>施設コスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期で見ると案1-①②と比較して劣る。25年後(R31)以降の長期スパンで見ると案1-①②、案2-①と同等の評価となる。</li> </ul>
		<p><b>通学距離</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校で4kmの通学距離で80%程度は圏内だが、<b>一部圏外</b>。</li> </ul>

12

### 3. 学校規模適正化の検討

#### ■ シミュレーション結果

	そのまま	案1-①②	案2-①	案2-②
学校規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R13時点で全小学校が1学年あたり1学級</li> <li>・ R13時点で複式学級の可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年後(R36)まで小・中学校で1学年あたり3学級以上、その後、50年後においても2学級維持。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R13時点で、1つの小学校が1学年あたり1学級。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30年後(R36)には、1つの小学校が1学年あたり1学級。それまでは2学級、中学校3学級以上を確保。</li> </ul>
施設コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設費がなく当初は優位だが、修繕費が蓄積し約20年で逆転。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案1-①②が優位であるが、長期で見ると4つの案で同程度。</li> </ul>		
通学距離	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いずれの案よりも優位である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大部分は通学距離圏内だが、一部圏外。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのまま（現状）には劣るが、案1、案2-②より優位。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大部分は通学距離圏内だが、一部圏外。</li> </ul>

13

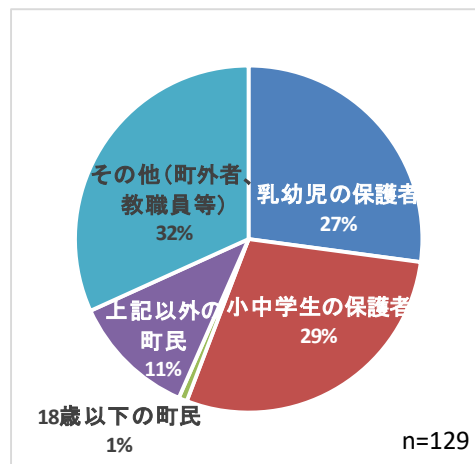
※オンデマンド配信「大野町小中学校のあり方検討～学校規模適正化基本方針＜検討資料＞～」より抜粋

## 1.4 結果

### 1.4.1 属性

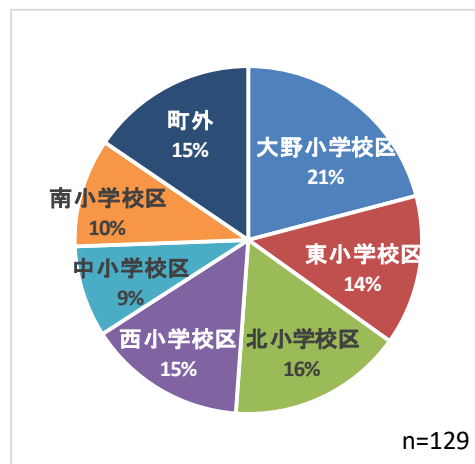
#### ■回答者属性

	回答数	回答割合
乳幼児の保護者	35	27%
小中学生の保護者	37	29%
18歳以下の町民	1	1%
上記以外の町民	15	12%
その他(町外者、教職員等)	41	32%
合計	129	100%



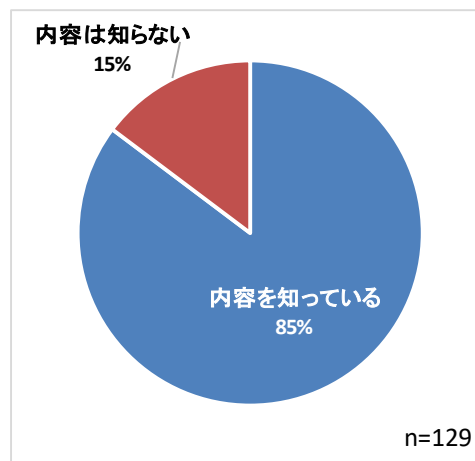
#### ■居住校区（地域）

	回答数	回答割合
大野小学校区	27	21%
東小学校区	18	14%
北小学校区	21	16%
西小学校区	19	15%
中小小学校区	11	9%
南小学校区	13	10%
町外	20	16%
合計	129	100%



#### ■大野町小中学校のあり方外部検討委員会の答申内容について

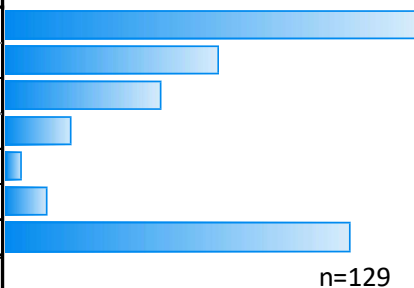
	回答数	回答割合
内容を知っている	110	85%
内容は知らない	19	15%
合計	129	100%



## 1.4.2 各案及び統廃合に対する意見

### ■良いと考える案

(単集計)

		回答数		回答割合		
案1	①	62	50	48%	39%	
	②		26		20%	
案2	①	23	19	18%	15%	
	②		8		6%	
現状維持		2		2%		
その他		5		4%		
言及なし		42		33%		
合計		134	152			n=129

※「設問4」の回答より集計

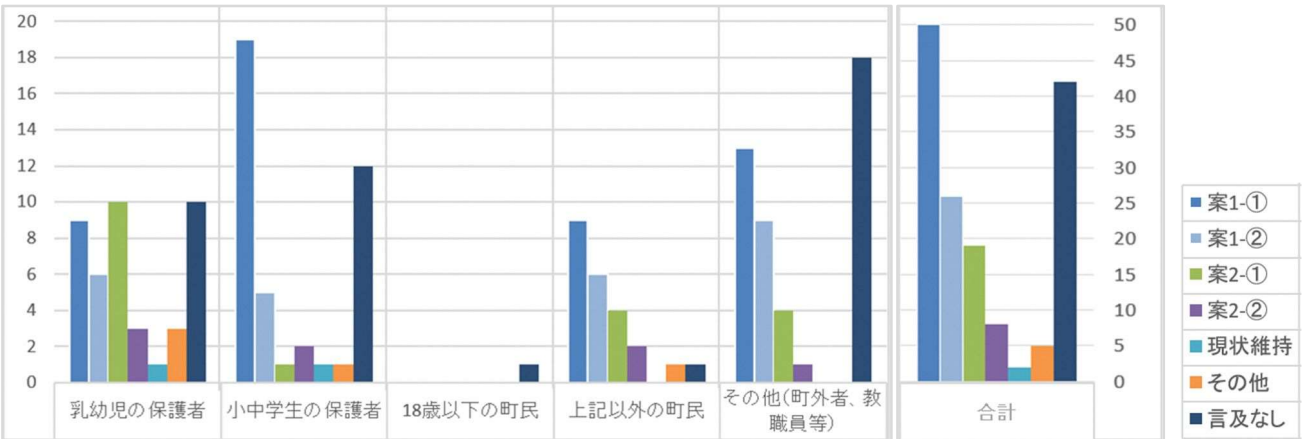
※回答に重複あり

その他
小学校高学年から統合するなど、他市町村と地型枠組みを作ることも検討してはどうか。
統一化するのは良いと思うが、今の(小学)1年生が卒業するまでは変えなくても良いと思う。いきなり変えるのではなく、まずは西と北など少ないところが組んで児童の様子をみても良いと思う。
(中学校について)揖東中学校を廃校とし、大野中学校を残せば良いと思う。
来年度設立することも園の付近に、小学校・中学校も設立し、幼少期から中学卒業まで連携の取れた教育ができるようにした学校を設立しても良いと思う。
個人的には統廃合するにしても、中学校2校、小学校4校程度が望ましいと思う。

- ◆ 「案1-①」を良いと考える回答者が最も多く、次いで「案1-②」、「案2-①」である。
- ◆ 「その他」に分類した中には、段階的に統合するといったものや、こども園と連携するなどの意見が見られた。

(属性別)

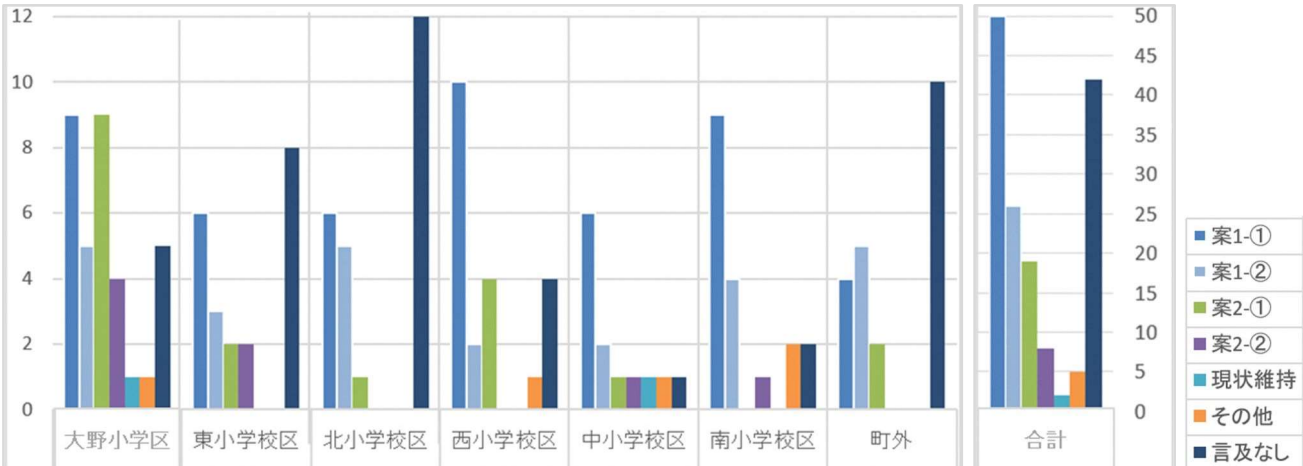
属性	良いと考える案							n
	案1-①	案1-②	案2-①	案2-②	現状維持	その他	言及なし	
乳幼児の保護者	9	6	10	3	1	3	10	35
小中学生の保護者	19	5	1	2	1	1	12	37
18歳以下の町民	0	0	0	0	0	0	1	1
上記以外の町民	9	6	4	2	0	1	1	15
その他(町外者、教職員等)	13	9	4	1	0	0	18	41
合計	50	26	19	8	2	5	42	129



◆ 「乳幼児の保護者」は「案2-①」の回答数が最も多く、「小中学生の保護者」や「上記以外の町民」「その他」は「案1-①」の回答が最も多い。

(居住地区別)

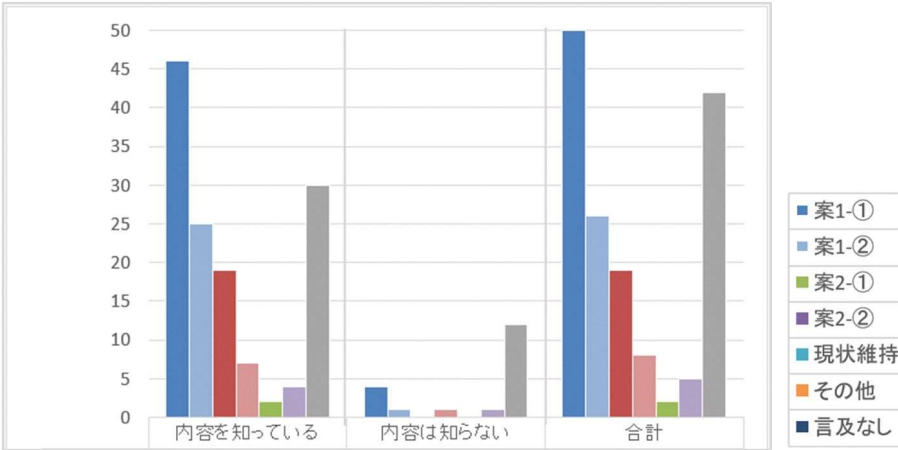
居住校区	良いと考える案							n
	案1-①	案1-②	案2-①	案2-②	現状維持	その他	言及なし	
大野小学校区	9	5	9	4	1	1	5	27
東小学校区	6	3	2	2	0	0	8	18
北小学校区	6	5	1	0	0	0	12	21
西小学校区	10	2	4	0	0	1	4	19
中小小学校区	6	2	1	1	1	1	1	11
南小学校区	9	4	0	1	0	2	2	13
町外	4	5	2	0	0	0	10	20
合計	50	26	19	8	2	5	42	129



◆ 「東小学校区」「北小学校区」「中小小学校区」「南学小校区」の居住者は「案1-①」または「案1-②」の回答が多く、「大野小校区」「西小校区」の居住者は「案1-①」または「案2-①」の回答が多い。

(答申内容別)

答申内容	良いと考える案							n
	案1-①	案1-②	案2-①	案2-②	現状維持	その他	言及なし	
内容を知っている	46	25	19	7	2	4	30	110
内容は知らない	4	1	0	1	0	1	12	19
合計	50	26	19	8	2	5	42	129

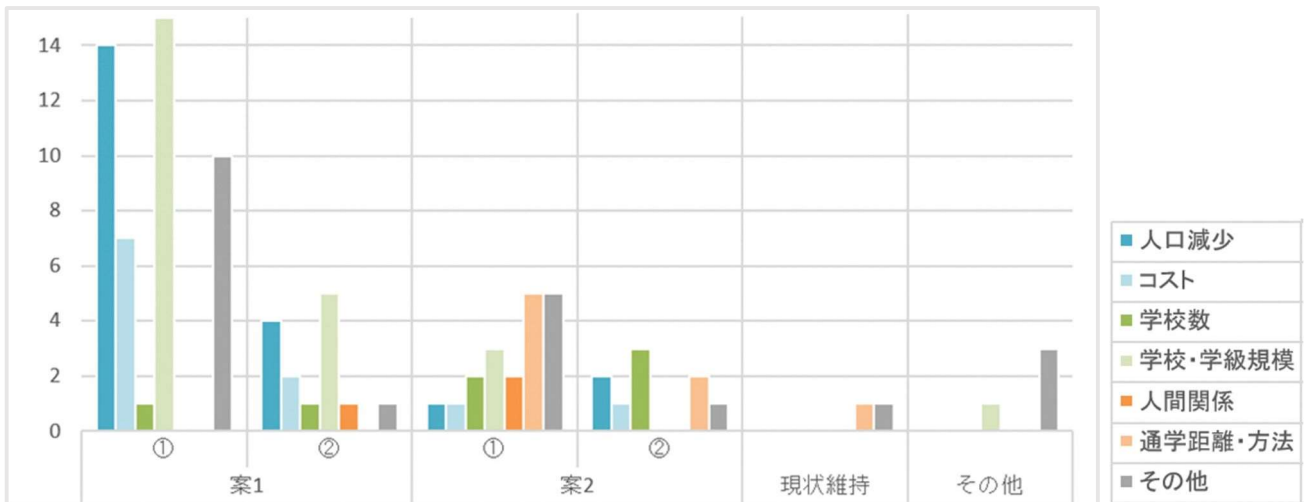


■理由

各案を支持する理由の回答内容を案別および観点別にまとめる。記述回答の内容は、各回答から該当部分のみ抜粋し、一部要約している。

(回答理由の観点別回答数)

理由の観点	良いと考える案	人口減少	コスト	学校数	学校・学級規模	人間関係	通学距離・方法	その他	n	
		案1	①	14	7	1	15	0		0
	案1	②	4	2	1	5	1	0	1	26
	案2	①	1	1	2	3	2	5	5	19
	案2	②	2	1	3	0	0	2	1	8
	現状維持		0	0	0	0	0	1	1	2
	その他		0	0	0	1	0	3	3	5



(案1-①、②)

	観点	主な意見	回答数
案1	人口減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少を見据えると、案1が好ましい。</li> <li>・児童生徒数が減少していることにより、単学級が増えていることを考えると統合が良い。</li> <li>・児童生徒数が減っており、現在の学校数は多い。複式学級になる前に、統合を進めてほしい。</li> <li>・何度も統合するより、(一度で)統合すれば良い。</li> <li>・年間の出生数を鑑みると1校で十分。</li> <li>・案1(又は案2-②)が、将来的に人数が安定して良い。</li> </ul>	15
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校を2校に統合しても、いずれは1校になるのであれば、建設コストや管理費が無駄になる。</li> <li>・人口減少により、税収減少が考えられるため、維持管理費の負担を考慮すると1校が良い。</li> <li>・改修するより新築し、長期的な視点での維持コストを下げる方が良い。</li> <li>・(義務教育学校にして)財政破綻をしないようにするべき。</li> <li>・費用の面からも、育ての面からも、全部統合が良い。</li> </ul>	7
	学校数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の選択肢が町内の1校か町外の私立となるため、「本当はあつちの学校の方が良かった」とならない。</li> </ul>	1
	学校・学級規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沢山の人の出会えると、自分に合った友達もでき、切磋琢磨することが可能である。</li> <li>・子どもたちには、勉強はもちろんだが、たくさんの人と関わり、心も成長して行ってほしい。</li> <li>・クラス替えがなければ、環境の変化への適応力、コミュニケーション能力などが養われないこととなる。クラス替えが可能な環境で、様々なクラスメイトの中で、自分を見つけ、人とのやりとりの仕方や、自分の身のこなし方など、経験してほしい。</li> <li>・複数学級を実現することで固定化した人間関係の中で学ぶのではなく、互いに成長しあい高め合う中で学ぶことができる。</li> <li>・友だちとの協調性がこれからの世の中大切だと思う。</li> <li>・学校規模、施設コスト、通学距離の3項目の中で、優先順位は学校規模の維持が一番であると考えられる。</li> <li>・人数が多いこと、クラス替えが可能なことは重要な項目であると考えられる。</li> <li>・1学級の人数を少なくし、複数クラス作れると良い。</li> <li>・気の合う子合わない子がいるため、クラス替えができる規模は必要。</li> <li>・クラス替えがなく、苦手な子とずっと一緒であると、その子にとっては悪影響である。</li> <li>・科目ごとに得意な子と苦手な子がお互い余計なストレスを持たないような授業体制の工夫には、人数が必要である。</li> <li>・小規模な学級は、対応が手厚い一方で、子どもたちの刺激が少なかったり、昔と比べて行事が簡素化してしまったりといった点が懸念される。</li> <li>・(小中一貫校や義務教育学校のあり方が、)長期にわたって一定の規模を確保できる。</li> <li>・極小人数で6年間過ごすことがないように、単学級が避けられるようにしたい。義務教育学校が良いのでは。</li> <li>・義務教育学校の場合、ある程度の児童生徒数が確保され、集団の中で切磋琢磨していける環境の整備や、教職員の人数が確保されれば専門性を活かし、双方がより良い教育を提供・受けることができる。</li> </ul>	15
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校として、滑らかに全学年が進級できるのは良い。教員とのやり取りも円滑になる。教員の数が増え、働き方に融通が利くのではないか。</li> <li>・子供が少ないと、PTAの役員など、保護者の負担も大きくなる。</li> <li>・将来を見据えて長い目で見ると、案1-①が良い。</li> <li>・教育の質を落とさないためにも、義務教育学校が良い。</li> <li>・(義務教育学校であると、)教員同士も助け合いができる。</li> </ul>	10

- ◆ 人口減少の観点から、1校への統合が妥当であるという意見が多く見られた。
- ◆ 長期的な将来を見据え、建設コストや維持管理費を鑑みる意見があった。
- ◆ 柔軟な教育体制や子どもたちの学習面から、一定の学級規模が求められる。また、児童生徒の人間関係の観点から、クラス替えが可能な学校規模が求められる。
- ◆ 教員の対応や働き方、保護者の負担等の観点からの意見も見られた。

(案2-①、②)

	観点	主な意見	回答数
案2	人口減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化が進み、1学年1学級が当たり前になり、PTAなどの活動も負担がかかってくるため、(案2-①)で合併した方が行事面でも良い。</li> <li>・案2-②(又は案1)が、将来的に人数が安定して良い。</li> <li>・案2-①では、揖東中学校区で少なくなると考えられるので、案2-②が望ましい。</li> </ul>	3
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(通学距離が遠くなりバスなどが必要になった際に、)その費用の出所が問題である。小学校は2校が良い。</li> </ul>	3
	学校数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校が2校あると、中学校に進学した際に人間関係が変わるため良い。</li> <li>・いじめやトラブルがあった際に、町内で転校できるよう、特に小学校は最低2校は必要。</li> </ul>	3
	学校・学級規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年1学級であると、いじめがあった場合に不安。</li> <li>・案2-②が良い。子どもたちが多様な考えに触れて、学びを深め合えると良い。</li> </ul>	3
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西小学校区の保育園やこども園に通っている子どもにとって、中、南小学校区は馴染みがなくかわいそう。西小は大野、北、東小と統合するのが良い(案2-①)。</li> </ul>	2
	通学距離・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西小学校区から、中、南小学校区に通うのは遠いため、案2-①が良い。</li> <li>・学級数より通学利便性を重視し、案2-①とする方が良い。</li> <li>・(案2以外で)通学距離4kmとなる場合、小学生からすると結構な距離と時間となる。</li> <li>・登校時間の差が大きいため、案2-①とする方が良い。</li> </ul>	6
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の観点から、普段から活用している学校は1校でも多い方が良い。</li> <li>・小中一貫校で教科担任制となった場合、子どもの学習面、精神面などを総合的に把握し、フォローする担任の先生が存在するのか不安。</li> <li>・小学生のうちから、中学生から影響を受けてしまうことが心配。</li> <li>・地域交流の観点から、小学校は現在の中学校区を基に統合するのが妥当(案2-①)。</li> <li>・案1-①が良いが、5年以上の時間がかかるなら案2-①を併用するのが良い。</li> <li>・案2-②が通学しやすい。</li> </ul>	5

- ◆ 案1と同様に、人口減少の観点から統合が求められている。
- ◆ いじめやトラブルがあった場合や中学校進学時に、人間関係を変えられるよう、小学校は2校が良いとの意見が見られた。
- ◆ 西小学校区に関して、通学距離の観点から案2-①が望ましいとされている。
- ◆ 防災や、教員の対応、中学生から小学生への悪影響、地域交流の観点からも意見が挙がった。

(現状維持)

	観点	主な意見	回答数
現状維持	通学距離・方法	・子どもが通うことを考えると、このままが良い。	1
	その他	・現在の小学1年生が卒業するまでは現状維持で良い。多感な時期に環境が変わるのは望ましくない。	1

- ◆ 現在の子どもの通学や精神面への負担を考慮し、現状維持が良いとの意見が見られた。

(その他)

	観点	主な意見	回答数
その他	学校・学級規模	・児童数が少ない方が、教員の目も行き届きやすく、充実した教育という観点で良い。 ・中学校に関しては、統合されることで部活動に多くの選択肢ができ、非常に良い。	1
	その他	・現在各学校に在籍している児童は、やっとな環境に慣れてきたところであるのに、ガラッと変わると登校しぶりや不登校が増加することが懸念される。いきなり変えるのではなく、まずは西と北など少ない所が組んで児童の様子を見ても良い。 ・(来年度設立するこども園の付近に小・中学校を設立することで、)気軽に保育実習や小・中合同の地域学習などを取り入れやすくなる。また、働く親としても、こどもたちの拠点が一か所になることで、送迎の負担や災害時の心労も軽減されると思う。 ・小中学校の統廃合は、町の人口アンバランスを加速させる可能性があり、誤った方法では郊外の切り捨てにつながる恐れがある。中学校2校、小学校4校程度が望ましいと思う。	3

- ◆ 部活動の選択肢の拡大など、統合のメリットを踏まえた上で、小規模学級が教育面で良いという点や、環境の変化により登校しぶりや不登校が増加することへの懸念から、段階的に統合する方が良いとの意見が見られる。

■課題や検討事項

各案における課題や、その他検討事項等の意見を、項目別にまとめる。記述回答の内容は、各回答から該当部分のみ抜粋し、一部要約している。

(学校・学級規模について：8件)

良いと考える案	意見
案1-①、② 案2-①、②	より一層、個人の適正に合った教育を実施するためには、ある一定の規模を維持した学校運営が求められるため、必要な統廃合を進めていくべきである。
案1-①	1クラスの人数などに配慮し、全生徒に目が行き届くシステムにしてほしい。
その他	(教員の負担を軽減し、教員の質を確保するために、)1クラスの人数を35人から25～30人に減らすなどを検討するべきである。
言及なし	人数が減るのは目に見えているため、2学級あるともし何かあった時でも1年でクラス替えができて良い。クラス替えの楽しみもあると思う。
	現在中学生の子どもは、1学級40人でぎゅうぎゅう詰めで、椅子を引くにも難しいように思われる。できれば1学級26～34人くらいが望ましいと思う。
	1学級20人程で、クラス替えあると1番嬉しい環境である。
	ある程度の人数がいないと切磋琢磨される場面が限られるため、子供を鍛える意味で人数が増えることは良いことだと思う。

- ◆ 良いと考える案の言及のない回答者においても、クラス替えが可能な学校規模を求める声や、多すぎず少なすぎない学級規模を求める意見が挙がった。

(通学距離・方法について：44件)

良いと考える案	意見
案1-①、②	・通学距離が問題になる子はスクールバスが良いと思う。 ・小学生の登校前に両親が仕事に行かなければならない場合があり心配である。通学距離が遠いと雨や雪の日は特に負担が大きくなるため早く登校したい子がいることも含めて検討してほしい。
	南北に広い町で、電車も通ってないため、スクールバスを循環させた場合の費用も計算したうえで考えるべきだと思う。
	通学距離の問題があるものの、現時点、温暖化のため下校時など熱中症になったり危険が伴う。1km以上の距離を子供の身長で荷物も持ち歩くことは危険である。
	通学距離については心配な点も多く、特に入学してすぐの小学校低学年のころは長い距離を歩くとなると体力や交通安全の観点など心配事が多くなってしまふ。ぜひスクールバスの導入を前向きに検討してほしい。
	オンデマンドバスなど活用し、親、子どもの負担にならないようにしてほしい。
	中学校1校小学校1校バス通学ありに賛成である。
	登下校のあり方、バスを使う地区の発車時刻など早い段階で具体的に示すことも住民判断を求める上で必要であると考える。

良いと考える案	意見
案1-①	遠くなってしまう子たちはスクールバスを準備していただきたいと思う。
	通学の面ではスクールバスが必要になるかと思うが、子育て家庭が最も心配なのはやはり通学方法である。
	場所についてはどこに作ったとしても遠くて歩いて登校できない子どもたちが出てくるため、通学バスの配置は必須だと考える。30分以上歩いて学校に通うことは、夏場であれば脱水の危険もあり、バス通学にしなければいけない目安だと思う。
	小中一貫校にし、遠方の児童通学には町の巡回バスを使用してはどうか。
	統廃合により通学時間、距離がどのくらい伸びてしまうのか心配である。見守り隊の方がいるため今は良いが、そういうことをしてくれる人も減ってしまうだろうと思っているため、不安である。
	将来的には可能であろうと予測される自動運転バスなどを利用して、なるべく多くの児童生徒の通学負担を軽減する方策を、自動車メーカーなども早い段階から協議を進め、実現してほしいと思う。
	通学はスクールバスを活用すれば良いと思います。
	スクールバスなども運用すれば、通学の問題も解決するのではないかと。
	今後の少子化にむけて、小中一貫にするのは賛成だが、通学の遠い小学生はどのように通学するのか具体的に教えてほしい。
	通学距離も変わるので、スクールバス通学は必須と思う。
	統廃合により、通学距離の懸念は残るものの、徒歩で登下校できる仲間が増えたり、スクールバスによる送り迎えが可能になったりなど、児童生徒と保護者の安心につながると感じた。
	スクールバスなど大野町からの支援もあれば、登下校の距離や不審者への心配も軽減され親としてはありがたい。
	児童生徒のために、教育の質を落とさないよう、通学する手段を整えることを考えても、義務教育学校がよいと考える。通学面が心配である。今でも車で送迎する保護者も多いので、学校が遠くなれば更に登下校時の送迎が増え学校周辺が大変混雑して、徒歩で通学する子が危ないのではないかと。
案1-②、案2-①	通学に関する具体的な方法や時間のシミュレーションを示してもらえると、判断基準となる。
案1-②	将来のことを考えると小中学校を一つずつにした方がいいなと思うが、通学距離の問題がある。
	スクールバスは必須になってくるかと思うため、子どもの安全面を考えた上でもスクールバスは巡回してほしい。近年物騒な事件が多いので、通学の距離が長いと、不審者、誘拐、性犯罪など心配である。通学路の選定、見守り隊など地域の方に協力をお願いすることが必須になってくるかと思う。
案2-①	今も通学路としてガードレールなどのない細道の白線内を歩いているのを見ると、とても危なく思う。高齢で危ない運転をする方も多い地域である。すぐにでもちゃんとした壁のある通学路を作ってもらいたい。統合したら通学距離も伸びるので尚更。
	猛暑の中、片道30分以上重い荷物を背負わせて徒歩通学となると、大人でも熱中症などなり得る。2km以上はバスにするなど、検討してほしい。4kmまで徒歩は小学生には過酷である。
	登校時間のシミュレーションをしてもらえると嬉しい。

良いと考える案	意見
案2-②	通学4Kmは現実的ではない。猛暑による熱中症の不安、広い地域から通うことにより、一人で歩く距離が長くなることなどをふまえ、スクールバスは必須と考える。
現状維持	生徒数が減っていく中、統合はしかたないのかもしれないが、小学生のさらに1年生が通うことを考えると2校はほしいし、通学方法をしっかり検討してほしい。
その他	<p>(揖東中学校を大野中学校に統合すればよいと考えるが、)その場合遠方の地域はバスを用意するなり、それなりの対応が必要になると思う。</p> <p>中学校2校、小学校4校程度よりも少なくするのであれば、スクールバスを通学時間帯に複数本運行(往復各2本以上)するなど、大野町の利便性を他に向かってPR出来るほどに充実させてほしい。</p>
言及なし	<p>小学校、中学校を統合する事には賛成であるが、やはり登下校が心配。登下校のトラブルや不審者の目撃情報も増えているため。国の指針は4kmまでとのことであるが、距離が長すぎると思う。最寄りのバス停や、公民館に集合して、距離にかかわらず、スクールバスで送迎してもらえると良い。</p> <p>もし遠くなるようであればスクールバスがあると安心である。</p> <p>通学距離が気になるのと、バスが出るとしても、子供の体力とかがつかないのも気になる。大きくなれば距離はそこまでかもしれないけど、やっぱり低学年など心配。不審者なども心配。中学校小学校が一緒でもいいけど、校舎を分けるとかしてほしい。</p> <p>できれば家の近くの学校に通わせてほしい。</p> <p>案1-②だけは小学生低学年が通うことを思えば無理だと思う。</p> <p>通学が遠い学区のみバスも検討が必要です。</p> <p>統廃合により今の学校よりも遠くの学校に通うことになり、その時間などの負担を考慮して欲しい。</p> <p>小学生の通学区距離について、徒歩圏内が4km以内の基準は遠すぎる。真夏や真冬、大雨の日などに徒歩通学は無謀である。通学距離が2km以上の場合はバス通学が妥当だと思う。</p> <p>校区が広がることで、児童の通学方法に課題がでてくるのではないかな。</p> <p>教育環境の充実を目指すため、統合は必要だと思う。通学方法も含め検討を進めてほしい。</p> <p>通学が困難な家庭がないようになると良いと思う。</p> <p>通学40分以上のところはすべてスクールバスでなければ、(統合に)反対である。</p>

- ◆ 支持する案に関わらず、通学距離・時間が長くなることを懸念する意見が多く挙がった。
- ◆ スクールバスを求める声が多く、その他児童生徒の安心安全な通学を確保する施策が求められている。

(教員による対応について：4件)

良いと考える案	意見
案1-①	人数が多ければ多いほど先生の目が行き渡らないことが懸念される。イジメや学習の面でも悪化しないかが不安である。
	小学校の教科担任制については心配である。小学生については勉強以外の面をまだまだ重視すべき点が多く、その部分を補えるほどの教育者またそれに関わる大人が連携連帯できるのか疑問に思う。
	先生の目が行き届くか心配な面がある。先生の人数もそれなりに確保する必要がある。
	現在は少人数で、目が行き届くことも事実。1クラスの人数や、支援員の配置、副担任制など、配慮が行き届くようなシステムも充実してほしい。

◆ 「案 1-①」を良いと考える案として回答した人の中からは、学校・学級規模が大きくなった際の教員の対応に不安を感じる声が見られた。

(不登校・特別支援学級等への対応について：4件)

良いと考える案	意見
案1-①	小中一貫校がいいと思うが、不登校児童生徒のための学校らしくない学校もあるといいのではないかと考えた。
	特別支援学級など、少人数学級も人数が増えるとあまり(先生の)目が届かなくなってしまうのではないかなどが心配。特に環境の変化に敏感な子どもも多く在籍していると思うので、そういう子へのケアは手厚くしてほしい。
案1-①、② 案2-①、②	学校に通えない児童生徒も一定数いるため、そういった児童生徒も無理なく通学できるような仕組みも必要ではないか。
言及なし	少人数クラス(情緒など)の扱いはどうようになるのか。そこも一般クラスのようにクラス替えの対象になるのか。

◆ 不登校の児童生徒への対応や、特別支援学級の扱いについて検討することが求められている。

(教育内容・方針について：7件)

良いと考える案	意見
案1-①	子どもは未来の宝 家庭でも施設でも(大野町は児童施設が多い)学校でも地域でも愛情深く育ててもらいたい。
	将来的には、規模のメリットを活かし、他市町村の親子から「大野町へ移住してでもあの学校で学びたい」と思われるような特色のある教育のできる学校を目指してほしい。 例えば、英語教育については県内で最も先進的な取り組みをする、進学塾などと連携してより高度な教育が可能な環境を整えるなどといった方策が必要となる可能性がある。
	・自分で考えられる子になってほしい。「自分で考えてごらん」といっても正解が用意されているような教育ではなく、「あなたがそう思うなら、それが正解だよ」と言えるような教育をしてほしい。 ・部活動の地域校など、地域で子育てをするのは、すごく良いことだと思う。こどもには、いろいろな世代の方と関わって育ててほしい。不登校も増えているようなので、学校以外の居場所づくりにもなると思う。
案1-①、② 案2-①、②	教育内容に対して、より一層、個人の適正に合った教育を実施してほしいと思う。
言及なし	この機会に大野町独自の教育方針として、小中学生が卒業後に全員が英会話ができるよう海外英語教師を増員し、海外・国内で活躍の機会が増え、子供たちが自信を持って社会に出て行ける教育を要望する。
	大野町の子どもたちに、どのような資質・能力を付けさせたいかを地域の方と熟議した上で、望ましい教育環境の整備が進められることを期待したい。 通学距離、施設コストより、最重要なのは、子どもたちの資質・能力育成に効果が高い学校再編である。
	大野町全体で大野町のこどもを育てるという理念に立って、学校教育を進めていかなければならない。

- ◆ 教育内容や方針に関する思い等、複数の意見が寄せられた。
- ◆ 教育内容や方針を重視した学校再編（統廃合）が期待されている。

(子育て支援等について：9件)

良いと考える案	意見
案1-①	なるべく人口減少スピードが遅くなるよう、社会福祉の充実、子育てしやすいまちづくり、他地域から「大野町で家庭を持ちたい」と言って来てもらえるようなまちづくりをしてほしい。
案1-②	合併に伴い、カバンもどうするか統一してほしい。
案2-①、②	いかに子育てしやすい町づくりをして、人を取り込んでいくかがそもそも大事だと思う。町ならではの子育て支援の整備をしてほしい。
言及なし	何十年後かまでのことを考えるより、人口が増えるようにする事を考えて欲しい。
	大野町で子供を産み育てたいと思えるように子育て支援を充実させてほしい(ランドセルの配布や、給食費の無償化など)。 <small>[同内容で2件]</small>
	(統廃合の)予定があるのであれば、小学校のランドセルを黄色で統一したうえで無償で配布し、すぐ統廃合に臨めるようにしてほしい。
	大野町から子供が減るのは、純粋に子供に対しての手当てが厚くないからだだと思います。子育て支援にもっと力を入れれば、確実に増えると思います。 何より、給食費を早く無償化してほしい。
	学校の統廃合を検討するのはよいが、そもそも住民を増やす政策をすることが先ではないのではないか。

- ◆ 学校再編（統廃合）の検討に伴い、子育て支援等の施策を求める意見が挙がった。
- ◆ 特にランドセルの無料配布や給食の無償化に関する声が多い。

(現在の児童生徒への配慮について：1件)

良いと考える案	意見
案2-②	30年後のことよりも、今現在の子どもたち(数年後まで)の事を優先に考えてほしい。

◆ 長期的な視点より、現在学校に通う児童生徒への配慮を求める意見が挙げられた。

(保護者の負担について：2件)

良いと考える案	意見
案1-①、②	オンデマンドバスなど活用し、親、子どもの負担にならないよう考えてほしい。また、働く親が多いため、長期休み等の過ごしやすさも検討してほしい。
その他	学校が1つになると保護者の負担も増えるのでは。学童や送迎などはどう考えているのか。

◆ 保護者の負担を懸念する意見が挙げられた。

(教員の負担について：1件)

良いと考える案	意見
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模校のメリット・デメリットの差を埋められるのは、教員の質である。しかし、担任を持つ教員は激務であり、心身ともかなりの負担がある。1クラスあたりの人数を35人から25～30人に減らしたり、担任の任期を短縮したりするなど、教員が心に余裕を持った形で子どもたちと接することのできる環境を整えるべきである。</li> <li>・教員も児童生徒も人間であり、相性がある。複数教員で1年間のクラスを担当することで、相性の合う教員を生徒が見つけられたり、教員も過度なプレッシャーを感じることなく子どもと接したりすることができる。</li> <li>・また、保護者が学校に関与する機会が減り、保護者が働きやすい環境にはなりつつあるが、その分学校と家庭との連携は取りにくく、教育に関わる全てを、教員の責任と捉える保護者が増えているように感じる。そのような過酷な状況の中、少しでも教員の心の余裕を与えることこそが、子どもへの教育の還元につながるのではないかと考えている。</li> </ul>

◆ 教員の負担を懸念する意見が挙げられた。

(廃校舎の活用について：4件)

良いと考える案	意見
案1-①、②	廃校になる小学校はどこかの企業が買い取って活用してもらえれば大野町の税収も増えるし理想である。 残った校舎のどこかを不登校特例校として活用することも必要ではないかと考える。
案1-①	今ある小中学校の校舎は解体し、体育館を整備して災害時の活用、スポーツ競技ができるようにし、グラウンドを一部駐車場にすることで、新たな体育館の新築は行わずに済むと思う。
言及なし	統廃合後の旧校舎はどうするのか。災害時の避難所に今ある学校が指定されている所もあるが、耐用年数が過ぎてい るから取り壊して、新たに避難所を作るのか。

◆ 統廃合後の廃校舎の活用について提案する意見が寄せられた。取り壊すだけとするのではなく、有効活用が求められている。

(施設整備について：3件)

良いと考える案	意見
案1-①	今後、温暖化や寒冷化が起こった時に子供達が安心して学べる学舎の整備は急務であると考え。小中学校再編のタイミングで校舎や周りの環境(駐車場や体育館、プールなど)をよく考えて整備してほしい。
案1-①、② 案2-①、②	十分な施設が提供可能であれば、案①も良いと感じる。
言及なし	校舎も老朽化が進んでおり、今更改修も難しいことから、(統廃合を)早急に進めてほしい。

◆ 児童生徒の教育環境を確保するため、早急な施設整備が求められている。

(統廃合のスケジュールについて：6件)

良いと考える案	意見
案1-①、②	現在は送り迎えの都合等で小学校区とは別の校区にあるこども園に通っており、卒園後に仲良くしていたお友達と一時的に離れることが気がかりである。もし統廃合が早く進むのなら、こどもにとっても親にとっても嬉しい。
案1-①	検討会から実際の統合まで時間がかかり過ぎる気がする。一年でも早く、統合してほしい。
案1-②	小学校ではすでに一学級の学年があるため、少しでも早く意見を集めて実施することは難しいか。
案1-① 案2-②	(子どもが)来年小学生にあがるが、人数が少なすぎると感じた。早急に統合してほしい。
その他	西小学校が廃校になり、中小学校に合併するという噂をチラホラ聞いており、それがいつになるのか、こどもたちは徒歩での通学となるのか不安である。 今現在どのような意見が出ているのかというのも保護者は知りたいと思うので、何かしらで発信するべきであると思う。
言及なし	保育園児(年長)の子供を持つ親としては、いつから合併になるのか、この子が中学卒業までに合併するのか、明確なスケジュールを早めに出してほしい。

◆ 早急な対応や、明確なスケジュールの提示を求める意見が寄せられた。

(その他)

良いと考える案	意見
案1-①	<p>現在、大野町も人口が減っているが、子育て支援について非常に充実しており、大変満足している。それを対外へもっと積極的にPRし、外から人を呼び込むことも継続して実施してほしい。</p> <p>どのように再編されるのか楽しみである。今は学校がなくなってしまうのは寂しいかもしれないが、新しい校舎の設計図や、新しい制服などが決まれば、みんなわくわくするのではないかな。</p> <p>少子高齢化、町全体の人口減少の今、町が一つになることで関わる地域の方々も増えるため、町全体で子どもを支援していくことが必要だと考える。</p>
案1-②	<p>南の方に道の駅や新しい病院、工場が出来たりと大野町も発展しており嬉しいが、子供たちの環境も優先してもらえたら良い。</p>
案2-①、②	<p>老朽化について、小中学校だけではなく体育館や武道館、公園など、子どもが関わる施設の老朽化も深刻。施設の維持管理についても統廃合と合わせて検討してほしい。</p>
その他	<p>・転入される場合は、子どもたちの通学を最優先に居住地を選ぶケースが多いと予想できる。そうなると、町中心部から離れた地区は、他地域からの転入が見込めず過疎化が一気に進み、気が付けば高齢者ばかりという事態になる。高齢化(農業従事者の減少)により耕作放棄地が増え続け、農地転用もままならない状況で小中学校の統廃合が行われて過疎化が進むと、今後郊外の地区がどうになってしまうのかとても不安である。町の将来を大所高所から見て、大野町全域が住みやすい町であるよう統廃合の規模を決定してほしい。</p> <p>・将来、廃校を復活できるよう、大野町の人口増加に資する施策を(企業誘致並みのエネルギーで)進めてほしい。ベッドタウンとして乱開発は困りものだが、農地転用のハードルが高すぎるのも町発展の妨げである。住宅価格が高騰している昨今、まだまだ安めの土地価格を含めれば大野町も魅力的に映るのではないかな。</p>
言及なし	<p>これからはICTの活用により少人数によるデメリットを補える教育の形もあるため、少子化=統廃合ではなく、統廃合は少子化のなかでの公教育の最適化の1つの方法という視点での検討も入れてほしい。</p> <p>どんな学校を目指していくかの議論が大切になっていくと考える。</p> <p>これから大野町で生きていく子どもたちを中心に考えていくことは、最後まで大切にしなければと思う。</p> <p>「1学年2学級以上という前提」および「学級数に対して優劣をつけた評価基準」に大きな間違いがあると思う。「学年・学級規模と教育的効果の間に相関は無い」という調査研究結果も少なくないと聞いており、実感もある。教育者・教育委員会として考えるべきことを忘れ、経済効率優先の土俵に上ってしまったと思う。この方針案は誤ったメッセージを世間に送っているのではないかと心配である。このようなことを踏まえた「方針案」の修正を切に願う。</p> <p>大きな変革期であるため、今後何十年と持続可能な選択をすべきだと考える。</p>

◆ 学校再編(統廃合)についてポジティブな意見や、評価基準に対する疑問の声、その他提案等が寄せられた。